



広報

なは市民の友

認知症の夫に寄り添う

※写真はイメージです



市内の高齢者のうち、認知症と思われる人は8人に1人。高齢化にともない、2025年には5人に1人が認知症になると言われています。

一方、65歳未満で発症し、働き盛り世代に多いとされる若年性認知症。家庭や社会で重要な役割を担っている世代ですが、年齢から認知症と結びつかず、受診が遅れてしまう場合もあります。

自分自身やご家族、周りの人の変化に気づき対応するためには、私たち一人ひとりが認知症について正しく理解することが大切です。

できることを大切に

車の運転中、交差点でダンプカーが直進してきたのに右折したんです。今となってはあれがサインだったのだと思いますが、その時は疲れているだけだとして、そう静かに語る、田口多恵子さん。夫（Aさん 65歳）が認知症と診断される前のことでした。

告知

ある日、職場で頭痛を訴えたAさん。検査の結果、医師から「軽度認知症」と告げられました。Aさんが54歳の時でした。

当時、Aさんは普通に生活ができていたので、田口さんは誤診だと思ったそうです。一方、Aさん自身のショックは大きく、じっと考え込み動かない日が続きました。表情が失われていくのが辛かったと、田口さんは話します。

Aさんは2年間休職し退職。一家の生活は田口さんの肩にかかってきました。家のローンや教育費など経済的に大きなダメージを受けましたが、田口さんが仕事をしていたことで、何とか切り抜けることができました。

認知症を理解し寄り添う

下の娘さんは症状が進むお父さんを受け入れることが難しく、トイレを汚したAさんに厳しく当たることがありました。その時、田口さんは「誰でも病気になる。家族なのだから助けてあげよう」と諭しました。

そんな田口さんですが、数年はAさんの病気のことを周囲に打ち明けられなかったそうです。ちょうどその頃、東日本大震災が発生、悪夢のような映像を見て思います。「家や家族を失う人もいます。認知症は大きな問題ではない」と。仕事から帰ると家中の電化製品が壊されていたり、夜中に何度も同じ話を聞かされたりする。毎日様々なことが起きました。それでも「怒らず受け入れる」ことの積み重ねで、うまくかわせるようになります。Aさんができることを探し、それを明日も大切にすることを心がけました。Aさんの笑顔が何よりの喜びになりました。

田口さん自身、苦しい時は友人に相談し、家族会に参加することで乗り越えてきたそうです。また、デイサービスなどで介護をサポートしてもらえたことで、仕事を続けられました。

しかし、1人暮らしや老老介護の世帯では、助けを求め、相談することさえできない人もいます。と田口さん。「認知症サポーターをもっと増やし、声をあげられない人を支援してほしい」と言います。認知症の人は毎日知らない人に囲まれているような状態で、常に混乱と不安の中にいると語る田口さんは「周囲の人の表情や言動に敏感です。優しく語りかけると、不安感も和らぐと思います」と話します。より多くの人に認知症を理解してほしい、と考えています。

Aさんは現在、入院生活を送っています。家族との記憶が削られ寂しさを感じる田口さんですが、今日も笑顔でAさんに寄り添います。

受講グループ募集

認知症サポーターになりませんか

認知症の人やその家族を温かく見守る応援者、それが「認知症サポーター」です。

現在、市内のサポーターは1万9000人あまり。小学生を含む幅広い年代のみなさんが活動しています。

養成講座の受講者には、認知症の人を応援する目印のオレンジリングを配布します。

【申込要件】

人数▼10人以上

場 那覇市内

時 1時間～1時間30分

費 無料

申開催申込書をチャージャーがんじゅう課へ提出(FAX可)

詳しくはこちらからご覧ください↓



講演会

もしかして、認知症かな？ 家族はどうする？

認知症について、様々な角度から学びます。

日 3月5日(月)

【認知症予防市民講演会】

14時～16時(受付13時)

・専門医の講話(下山登医師)

・田口多恵子さんの体験談

【認知症情報コーナー】

13時～16時

場 パレット市民劇場

(パレットくもじ9階)

対 那覇市在住・在勤者

費 無料

申 不要。定員に達し次第、入場制限となる場合があります。

チャージャーがんじゅう課
☎862・9010

●認知症の夫に寄り添う	1
●平成30年度 施政方針	2～3
●那覇市長賞 受賞商品決定 / 情報パック	4～7
●博物館トピックス / ニュースダイジェスト	8

主な紙面

市長からのメッセージ

認知症本人や家族にやさしい那覇市を目指して

認知症とされる人の数は、全国的に年々増加傾向にあり、本市でも今後同様な状況が見込まれています。

「誰もができる限り、住み慣れた地域で自分らしく暮らす」ことを目的とした、地域包括ケアシステムを充分に機能させるためには、市民の皆様、認知症に対する正しい理解と協力がとても大切です。

そこで3月5日(月)14時から、パレット市民劇場にて「認知症予防市民講演会」を開催します。専門医師による講話や、家族の体験談を通して認知症への理解を深め、当事者や家族に寄り添えるまちづくりを目指していきましょう。

入場は無料です。市民の皆様のご参加を、心よりお待ちしております。



那覇市長 城間幹子

総人口 323,259人(4,387人)
男:156,720人(2,434人)/女:166,539人(1,953人)

世帯数 150,708世帯(3,028世帯)

※()内はうち外国人
※総人口と世帯数は2018(平成30)年1月末現在

Facebook LINE YouTube
Instagram 防災 Twitter マチイロ